

平成15年度事業報告書

自 平成15年4月 1日

至 平成16年3月31日

1. “つどい” (定款4条2項による)

つどい 【21世紀を考える】

室井徹衛会長が戦争体験をはじめ、80余年のご生活を通して培われた様々なことを伺うことから、21世紀に生きる意味を考えることをめざし、7月、11月、1月、2月の4回、有意義な時を持った。

つどい 【留学生との交流】

文化的に異なった背景を持つ留学生との交流は、留学生にとっても当会の会員にとっても有意義であり、実施の希望も多かったが、忙しい留学生との日時の設定が難しく、3月に当会の創立35周年記念事業の一つである懸賞論文の授賞式をかねて行った。日本人学生の参加が少なかったことは残念であったが、留学生と交流する上で有意義な意見を聞くことができ、今後の活動に反映させたいと考えている。

つどい 【その他】

今年度は特別な企画の提案がなく、実施できなかったことは残念であった。

2. 創立35周年記念事業 (定款4条6項による)

創立35周年当会を迎えるに当たり、下記の記念事業を行った。

創立35周年記念祝会 2003年5月24日(土)於・霞ヶ関三井クラブ(ティーパーティー)

留学生を交え、幅広い年齢層の100名を超える参加者があった。東京都盲学校校長会副会長を代表としてセンサー付き輪投げの贈呈式を行い、ギターと琴、三味線による演奏、お茶席等、和やかなひとときで、参加者に喜ばれた。

視覚障害者施設(全国に73ある)に視覚障害者用センサーのついた輪投げを100セット寄贈した。

全国の主な大学を通して、また、ホームページを通して在日留学生を対象に「地球村で生き残るために これからの日本に期待すること」と題する作文を募集し、45編の応募作文から金賞1編(賞金30万円)、銀賞7編(賞金各10万円)を選び、3月27日贈呈式を行った。選考には日野原重明氏(聖路加国際病院名誉院長)、嚮田隆史氏(著述家、元朝日新聞論説委員)、松谷孝征氏(手塚プロダクション代表取締役社長)、大谷俊介氏(電気通信大学レーザ研究所教授、当会理事)が当たった。(最終選考2004年1月2

7日)入選作は小冊子にまとめマスコミ各社、関係者に配布した他、ホームページに掲載した。

3. 在日留学生の奨励金による支援 (定款4条6項による)

昨年に引き続き、ポインドグルン 金花(食品栄養学・中国内モンゴル出身)、劉 志興(観光学・マレーシア出身)を支援するのに加え、新たに金 恩晶(経済学・韓国出身)、ジェル-ワマ(経営学・パプア・ニューギニア出身)、丁 顔氷(国際観光学・中国出身)、田 蕾(社会学・中国出身)の4名、計6名の留学生を支援し、交流することとなった。

4. 宮崎亮医師支援 (定款4条6項による)

先年度同様、宮崎亮医師の活動を支援した。

5. 会報の発行 (定款4条6項による)

6月、9月、12月、3月の4回発行し、会の活動を報告すると共に、会員相互の交流を図った。

6. 国際交流事業 (定款4条2項による)

1976年にオーストラリアに寄贈した日本画25点の再活用の方法を探したが、さまざまな困難な状況があり、実現可能な方法を見つけるには至らなかった。

7. 鯉沼廣行、坂本真理の横笛によるチャリティーコンサート (定款4条6項による)

11月22日、かねてより再演の希望の多かった横笛によるチャリティーコンサートを明治神宮桃林荘において行い、会員、協力者に当会の活動状況を報告しご理解をいただく貴重な場となったと共に、つどい、創立35周年事業、在日留学生支援、宮崎医師、その他の事業費の一助とすることができた。

8. 東京ハルモニア室内オーケストラ支援(定款4条6項による)

演奏ばかりでなく、種類の文化活動でも高く評価されているため、会費を納め、コンサートに協力した。

9. 日本テレマン協会定期演奏会協賛(定款4条6項による)

演奏ばかりでなく、種類の文化活動でも高く評価されているため、東京における定期コンサートに協力した。

以上

平成16年度 理事会・総会議題

平成16年5月18日(火)午後3時30分~5時30分

於・銀座教会 地下集会室

- 一、平成15年度事業報告
- 一、平成15年度収支決算報告
- 一、平成16年度事業計画(案)
- 一、平成16年度収支予算(案)
- 一、その他